

令和元年6月6日現在

機関番号：36301

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2017～2018

課題番号：17H07294

研究課題名(和文)日本で翻訳されたクロボトキンの思想が朝鮮プロレタリア文学に及ぼした影響

研究課題名(英文)The influence of Kropotkin's philosophy(was translated by Japanese) on Korean proletarian literature

研究代表者

李 ミンヨン (LEE, MIN YEONG)

松山大学・経済学部・講師

研究者番号：70807437

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文):本研究はクロボトキンのアナキズムが日本を経て朝鮮に流れ込む過程でどんな差が発生したのかを朝鮮プロレタリア芸術家同盟(KAPF)の代表の劇作家宋影(ソンヨン)の作品を通じて確認した。朝鮮のアナキズムは大杉栄の著作から多くの影響を受けた。特に大杉栄が翻訳したクロボトキンの『相互扶助論』と『クロボトキン研究』は朝鮮のアナキズム及び初期社会主義の思想的基盤を形成するうえで大きな影響を及ぼした。一方、日本と朝鮮のアナキズムは、クロボトキンとその媒介者としての大杉栄という関連にもかかわらず、Anarcho-syndicalismeとAnarcho-communismeという差が確認される。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は西洋の思想、特にクロボトキンのアナキズムが東アジアに流れ込む過程で思想の主要な通路として日本を発見したところに重要な成果がある。また、そのような内容を大杉栄と宋影という日本と朝鮮の特定作家と彼らの著作を通じて具体的に証明したという点で重要な成果を上げた。

研究成果の概要(英文):The study identified the difference and the process of Kropotkin's anarchism flowing into Joseon through Japan through the works of Song Young, a leading playwright at the Korea Proletarian Artist Federation. Anarchism in Joseon was influenced by Osugi Sakae's writings. In particular, Kropotkin's "Mutual Aid" and "Kropotkin Research" translated by Osugi Sakae had great influences on the formation of anarchism and early socialism in Joseon. Meanwhile, Anarchism in Japan and Joseon was different in its aspects, despite its association with Kropotkin and its intermediaries, Osugi Sakae. If Osugi Sakae advocated the Anarcho-syndicalism, in Joseon's case, the Anarcho-communism was the mainstream.

研究分野：比較文学

キーワード：クロボトキン 大杉栄 宋影 アナキズム 思想史 比較文学

1. 研究開始当初の背景

(1) 1920年代から1940年代の韓国のプロレタリア文学と演劇についての研究する過程で、日本の影響がきわめて大きいという事実を知るようになった。日本の思想的動向が、韓国近代文学と近代演劇に思った以上に多大な影響を及ぼしているためだ。韓国近代文学を牽引してきた作家の大多数が日本留学派であったという点を勘案すると、1920年代から1940年代の韓国文化界のこのような傾向は当然の結果だといえることができる。でも、韓国文学史において作家たちの日本体験はそれほど重要視されておらず、結果的に韓国文学史の多くの部分で解釈の誤謬を産むこととなった。したがって、韓国近代文学研究にあつて日本との比較並びに影響関係を把握することはきわめて重要であり、このような比較文学的観点は韓国文学史の誤謬を正し、再解釈を可能とする新しい基準になると思った。

(2) 本研究で特に注目した作家は、1920年代から1930年代の韓国プロレタリア文学を代表する小説家であり劇作家である宋影である。ここで本研究者が注目したのは宋影が1920年代の初めに日本で生活していたという事実である。当時日本にはクロポトキンの著作が大杉栄によって翻訳、出版されており、アナキズムに対する日本の思想界の関心もやはり高かった。したがって、本研究では日本思想界のこのような雰囲気は宋影に影響を及ぼしているという仮説を立て研究を始めた。

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は比較文学、思想、文化的観点から日本で翻訳されたクロポトキン（Pjotr Alekseevich Kropotkin, 1842-1921）のアナキズム思想が朝鮮社会主義作家特に宋影（1903-1978）に及ぼした影響を明らかにすることであった。特に大杉栄（1885-1923）によるクロポトキンの翻訳書『相互扶助論』に注目した。

(2) また、宋影の日本体験に注目した。すなわち宋影が日本に滞在していた時期に日本の思想界から受けた影響、とくに大杉栄が翻訳したクロポトキンの著作の影響過程を綿密に分析しようとした。これを通じて、西洋で伝播した東アジア思想の潮流の中で、日本の影響や東アジアの同一性と差異を確認しようとした。

3. 研究の方法

(1) 本研究は研究対象の時代（1920年代から1930年代）の日本と韓国両国の思想史、文学史においてアナキズム思想がどのような過程と方法で受容されたのかを比較文化的観点で文献調査の方法により整理、検討した。韓国でクロポトキンがどのような経路によって翻訳され、どのような方法で解釈されたのかを日本の場合と比較対照させることによって、両国の思想的影響関係をなるべく明確に確認しようとした。

(2) また、ライフヒストリー研究の方法を取り入れて作家宋影が日本で滞在していた時期、彼の活動の詳細、朝鮮へ帰国後接触した人物と団体についての追跡調査を進めた。

4. 研究成果

本研究の成果を簡略に要約すると以下ようになる。

(1) まず日露戦争前後に日本に受け入れられ始めたアナキズム思想は植民地朝鮮にも流入しましたが、当時、朝鮮のアナキズムは大杉栄の著作から多くの影響を受け取ったことが確認できた。

(2) 特に大杉栄が翻訳したクロポトキンの『相互扶助論-進化の一要素』（春陽堂、1917）と彼の『クロポトキン研究』（アルス、1920）は朝鮮のアナキズム及び初期社会主義の思想的基盤を形成するうえで大きな影響を及ぼした。このような事実は1920年代初期に朝鮮のアナキズム関連著作の大半が大杉栄の翻訳だったということを通じて確認することができた。

(3) 一方、日本と朝鮮のアナキズムは、クロポトキンとその媒介者としての大杉栄という非常に興味深い差異を持っていた。大杉栄がクロポトキンの Anarcho-communisme を批判し、Anarcho-syndicalisme を主張し、思想の変化を見せた一方、朝鮮の場合、大杉栄が媒介になったにもかかわらず、クロポトキンの Anarcho-communisme を主な潮流として受け入れたということだ。このような差は、帝国と植民地という状況の違いで発生したものと判断される。

(4) 本研究の対象作家である劇作家宋影(ソンヨン)の作品を通じて、日本と朝鮮のアナキズム受入れの様相の違いが確認された。朝鮮プロレタリア芸術家同盟(KAPF)の代表の作家宋影の作品<蚊がなくなるわけ>(『芸術運動』、1927. 11)と<正義とキャンパス>(『朝鮮文芸』、1929. 5)は大杉栄の翻訳によるクロボトキン受容の観点からみたとき、新しい解釈を可能にしてくれた。これまでこれらの作品は社会主義思想を基盤に創作された作品として知られてきた。しかし、本研究を通じてこれらの作品はアナキズムを基盤に創作された作品であることが確認された。特に大杉栄によって翻訳されたクロボトキンが朝鮮に収容された状況をもとにクロボトキン著作の内容を綿密に分析した結果、これらの作品はクロボトキンの『相互扶助論』の作品化及びクロボトキン思想の核心を作品化したものであることが明らかになった。

(5) また、社会主義思想を作品化したという既存の学説と違って、宋影がアナキズム思想を作品化したことを証明するために試みたライフ・ヒストリー研究方法を通じて、作家の宋影の初期活動内容を一部再構成することができた。このうち最も有意義な部分は、彼の習作時代に耽読した作品、活動した団体の思想的起源を確認したという点だ。特に彼が書いた「東京、回顧、東京-二週間の電光的記録」(『対照』、1930. 4)は習作時期の宋影の活動履歴や思想の流れを確認することができる非常に貴重な資料として改めて検討が必要なものと考えられる。また、宋影は在日朝鮮人思想団体黒濤会(1921)の後身である北星会(1923)のソウル支部の北風会(1924)と関わった人物だったことを確認した。社会主義運動を標榜したこの団体は、その思想的起源にアナキズムを受け入れた団体であり、特にアナキズムと社会主義が分化されていなかった朝鮮の思想運動界の起源と展開過程などの特徴をよく示す団体だった。

これらの研究成果を踏まえ、本研究者は2018年11月24日に開催された韓国文学言語学会で「宋影、大杉栄そしてクロボトキン」というタイトルで、当時までの研究成果を発表した。以後、この学術大会で提起された様々な助言を参考に論文を執筆中だ。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 1 件)

- ① 李 ミンヨン、「宋影、大杉栄そしてクロボトキン」、韓国文学言語学会、2018

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

○取得状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。